

4 第2部（教育対話）について

- とても良かったです。若い人が海外視察に行ったこと、それを取り上げて話題としたことは大きな刺激となりました。
- 小学校こそ、学び方を学ぶスタートの時期であることを強く意識することが必要だと感じました。
- もう少し時間があってもよかった。
- 視察先の学校の様子から日本とは違う考え方ややり方がわかりました。常識的に考えていることも場所や国が変わりと同じではないことから、これからの教育も新しい視点が必要なのではないかと考える機会になりました。
- 今の学校の仕組みでは、教員も子どもも限界です。ここには書ききれませんが、もっといろいろな雇用形態で職員が増えたら、新しい形の教育に変えていけるのではないかと思います。
- 体育の授業での、技能以外にかかわる目標設定、自分のペースで自由に学習をすすめる、学び方を学ぶ、NCEA等、自校の取り組みを思い浮かべながら視点の違いに気づく等でき大変勉強になった。
- 子どもと向き合う中で、今の教育システムがあってないと思うことが多々あり、どういうふうに変えればいいのかのヒントがたくさん学べました。今までの教育のよさと新しい考え方や活動をうまく融合していきたいなと感じました。時間があっという間に過ぎてしまった対話でした。本当にありがとうございました。
- パネリストの先生がそれぞれの経験やお立場で感じたことを話されており、チャットの書き込みなども熱があって、道德の多様な価値の出会う場面を参観しているようだなと感じました。主体的と自主的な目の前の子どもとどう育て合っていくかを考えさせられました。
- ニュージーランドと日本の学校の違いを知ることができ新たな発見でした。自校でもできること真似できることがあれば少しずつでも取り入れていけたらと思いました。
- 多様性の世の中が急速に進み、教育界全体も変化が求められています。個人的には、日本はただもがいているとは感じていません。勤務している学校の子どもや地域に合わせた「教育」とは何かを、現場にいる管理職だけでなく初任も含めた職員全員で考え、今日話題に挙がった「専科、担任、個別・協働、不登校、支援のスタイル、日課、探究」等々、国県市町村が示す手段だけでなく、独自のシステムなども取り入れ、あらゆる手段の中から教師陣が最適解を目指して日々挑戦をしている学校が増えていると感じています。「カリキュラム・マネジメント」にすべての職員が関わっていくこと、どの国でも同じです。同じ方向を向きたいですね。
- 国際的な視点に立って日本の教育を見つめ直すことができたことで、私たちの取組の良さや課題が明確になったように感じました。

- 研修内容が盛りだくさんで、聞きたいことも盛りだくさんだったです。この研修をきっかけに、なにかこれからのあり方(学び方 教師のあり方 働き方 ライフバランス)など考えあえる場ができ、また発信できると、一歩ずつでも変われるのかなと思いました。まずは足元、自校で何かできないか考えたいと思います。研修報告ありがとうございました。
- 新しい内容で、教育がよい方向へ変わっていくのかなと感じた。
- 大変多くのことを得ることができました。
- これまでの日本型教育を否定するのではなく、そこに新たな教育を導入することの大切さを改めて感じました。ありがとうございました。
- 「対話」は今の世の中で最も課題意識をもって実践しないといけないことだと思います。PTAについても同様で、保護者と先生方との対話、保護者同士での対話、大人と子供の対話、地域と学校の対話等です。対話を通して、何のための活動なのか考え続けたいと思います。
- 大変貴重な体験をして来られた先生方をこれから活かしていくことがそれぞれの学校の充実につながっていくことだと思います。小田切先生と二年間長沼小で過ごさせていただきました。特に、学校行事や児童会の〇〇旬間の実施に当たり、子供たちには、①事前に必要な知識を指導 ②その活動の意義 ③活動への取り組む姿勢 など、端的に明確に何よりどの子にもわかるように伝えていた印象が強いです。今後もミドルリーダーとして学校を支えていってほしいと願います。
- ニュージーランドの小学校では学び方を学び、その子の力に合わせた学びを学校では提供するということが印象に残りました。自分で学習の仕方を選べる環境を整えることを、少しずつ取り入れて自分もやっていきたいと思います。そして子ども一人ひとりに寄り添い、関わり合う時間を日々の生活の中で大事にしていきたいと思いました。伏木先生やパネリストの先生方のお話をお聴きしながら、自分の授業や教育観を振り返る貴重な機会になりました。ありがとうございました。
- チャットも使って多くの方の意見を取り入れ、番組みたいでした。
- ニュージーランドの教育について、詳しくお聞きできたこと、同じような悩みを持ちながら日々すごされている先生方のお考えや、それに対するお話をお聞きできたことが、とても有意義でした。伏木先生に今日はお話ししきれなかった内容についてもお聞きしてみたいです。
- 参加された先生方が、本日の対話の中で、ご自身の教育実践のよさに気づいていく、新しいものが生まれてくる機会であったように感じました。本校の中でも対話する時間を大事にしていきたいと思います。
- 教育対話、大変面白かったです。もっともっと参加していいたいしお話が聞けたらと思うものでした。様々な背景の違う国の学校制度や現状について知ることができたと共に今後向かうべき方向や自校としてどのように取り組んでいったら良いかを考える

時間となりました。改めて何のために行っているのか目的を明確にし、今できることを今後のビジョンをもって学校で一丸となって取り組めたらと思います。そのためにも、学び続ける私たちであるように、教育会の意義や大切さについて伝えていきたいと思います。楽しく有意義な時間でした。

- 「体育専門の教科担任が体育を行うよさ」と「担任が体育の授業を行うよさ」について、認識する機会となりました。教科担任も、学級担任くらい子どもを把握して授業を行いたいし、多数の眼で子どもを捉えたいと思いました。
- 考えさせられることがたくさんありました。一人一人が自分のペースで主体的に学ぶ場、社会とのつながり、働くことはあくまで生活の一部、教師の専門性を生かす取り組みと担任の良さを生かす取り組み、知識重視からの脱却、我々職員のやりやすさではなく子どもの学びを中心に据えることの大切さ、活度が軸になる学校など、はっと感じるキーワードをたくさんいただきました。
- 日々、忙しさの中で、毎日が過ぎていきますが、このような時間があることで、目指す教育のあり方を考える機会となりました。ありがとうございました。
- 私も海外視察に行ったことがあります、その国から学ぶこと、また他国を見ることで日本のよさを再認識することがあるかと思います
- 視察研修に参加されたそれぞれの先生方の見方や考え方を通して発信していただけたと思います。
- 文化の違い、日本の教育ももっとおおらかでいいのかなと思いました。学校の当たり前を見直し、こうすべきをさらになくしたいと感じました。
- NZ研修で感じ取られたことを、各々の先生の視点で語っていただいたことがとてもよかったと思いました。今までの日本の教育の壁を皆が感じているのですが、それを打ち破っていくための切り口を参会した先生方が見つけられたように思いました。
- 「“毎日が自分主体”であるから、学校が楽しみになり、不登校は少ない」というニュージーランドの小学校の様子、伏木先生のお話、視察された先生方の対話にふれて、自分の中の教育観がゆさぶられました。自校でどのような取組をしていくことが望ましいのか考えます。
- 新たな学校の仕組み勉強になりました。とりいれられそうなヒントをいただきました。
- 伏木先生の著書などでニュージーランドの教育のことは聞いていましたが、よりリアルに具体を知ることができて良かったです。多くの先生方が知って、教育の在り方を考え合えるといいなと思います。
- 知らないことを知る楽しさ、今の自分（自校）と重ねて、これから取り組みたいことに思いを馳せることのわくわくを改めて感じました。
- 対話の中から多くのことを学ばせていただきました。知識ありきやることありきではなく、「子どもたちにとって何が必要なのか」ということを軸にして考えていく大

切さに気付かせていただきました。伝統的にやっていることは何にとって大切なのかという視点に立って、今私たちが行っている教育活動や本校の教育課題をもう一度考えたいと思います。考える機会、新たな視点をいただきました。ありがとうございました。

- 視察に参加された先生方それぞれに、動機や視点が異なっていることから、「対話」のよさをさらに感じることができました。
- NZ 視察で学んできていたことを、お一人お一人の視点を通して還元していただき、考えさせられましたし、学ぶことができました。ありがとうございました。
- 視野が広がった
- 聞きやすく（参加しやすく）、大変良かったです。
- 不登校の増加という現状から、従来の学校の在り方が限界にきていることを強く感じています。従来からの授業スタイルや教室の在り方など、古くからの常識にとらわれず、一人ひとりの子どもに目を向け、主体的で探究的な学びを重視する学校への転換の大切さを改めて実感しました。しかし、受験を見据えると、どうしても知識や技能の定着を優先せざるを得ないこと、改革を実践する上での難しさや、先生方から聞こえてくる負担感の増加という声にジレンマを感じています。これらを乗り越えるには、先生方同士の対話を重ね、日々の悩みや工夫を共有し合うことが大切だと感じました。また、学校をよりよくしていこうと努力されている先生方を、後押ししていくことの重要性も改めて感じました。
- 実際に見学し体験した先生方の生の声や考えを聞くことができるのは、貴重な機会だと思いました。ありがとうございました。子どもを学校のカリキュラムに合わせるのではなく、その子の実態に合った学び方や内容を選べるという発想を常に持っていなければいけないと感じました。そのようなカリキュラムやシステムを作るには学校全体で取り組まなければならないことであると同時に、今回のように自分たちが外国の教育システムについて学んだり、教育関係者だけでなく地域、保護者などの考えも聞きながら、考えていくことが大切だと感じました。
- チャットと連動して進行されていくのが非常に効果的だと感じました。意見を出しやすい方式だと思います。
- 日本の中での教育についての様々な改革は、やはり日本の教育の決められた「枠」の中での改革であり、その「枠」を見直すには、その枠にとらわれない実践から学ぶことが重要だと感じました。本日はありがとうございました。
- 先生方のご意見が参考になりました。
- 複雑化している社会に合わせ、子どもを取り巻く環境も多様化しているようにも思われるが、その表面的な変化に対応しつつも、もっと本質的なものにも目を向けた支援を心がけたい、と、小田切先生の発言から改めて感じました。
- ニュージーランドに行かれた先生方ひとりひとりのお声が聞けたのが良かったで

す。

- お話をお聞きし自分の教師としてのあり方や行動を見つめ直すことができました。
- 本日学ばせていただいたことをこれからに活かしたいです。
- ニュージーランドの学校の在り方から日本の学校の在り方を考えるよい機会となった。
- 外国の学校教育から学ぶ貴重な機会でした。また、参加された4名の先生方の研修姿勢が素晴らしく、これから学校現場で還元していただけるのだなと感じました。
- 面白かったです。様々な面からの見方考え方があって、まとめることの難しい内容だったと思いますが、それが逆に「なるほど〜」と思ったり、日本とNZとの違いだったりして、勉強になりとても充実した時間でした。当たり前と思っていることを思いこまないようにしたいと思います。
- とても楽しくお話が聞けました。
- 「学習者にそれぞれ学び方がある」という考えが根本にあるのNZの教育実践が納得できました。目の前の子どもたちの学びたいという要求に応えられるように、授業を考えることを改めて確認しました。貴重なお話が聞けて、とても良かったです。ありがとうございました。
- 題材がよかったと思う。いったん外(NZ)から自分たちの実践を考えるというのは、新しい視点の獲得につながった。
- チャットを使つての対話はいろいろな制約があるので、NZの視察研修の発表という形でよいと思います。
- 対話を通して多くの考えが出され、教育についてより深く考えることができた。
- 海外の教育についての現状がわかり、隣の芝生ではないけれど良いなと感じることは多かったです。だから、日本の教育が良くないとするのではなく、「より良くしていくには」と考えていきたいと思いました。
- ニュージーランドの教育と比べながら、教育の本質に関わって、考える視点をたくさんいただきました。教育委員会が無いなど、教育のシステムが大きく異なり驚きました。長野県の教育のよさを再認識しながらも、固定観念にしばられず、よりよい学校を築いていきたいと思いました。そして、伏木先生をはじめ、研修に行かれた先生方ともっと対話をしたいと思いました。
- 共感できる考えや対話したくなる内容が扱われ、アッという間の時間だった。それぞれの先生方も魅力的で、お会いすることがあればお話ししたいと思った。現在どの学校にもかかわるであろう内容が凝縮されていて、参加できてよかった。
- ニュージーランドの様子を興味深く聞かせていただきました
- 学校は何のためにあるのかということについて、多面的に考える機会となりました。学校現場では、教科書の内容を教える、書いてある通りに進める授業がまだまだ多いように感じています。全員同じ、型にはめる教育によって、学校を窮屈に感じて

いる子どもたちも多いかと思います。教員は子どもを見守る、子どもが思考を働かせることができる環境を整える、子どもが経験できる機会をつくるなど、教師観、学習観の転換を進めていくことが、これからの教育現場において必要であり、子どもたちの幸福感や自己有用感を高めていくことにつながっていくのだと、改めて感じました。

- 制度的な違いは個人の力では乗り越えられないことが多いのですが、前例や伝統、踏襲にとらわれず目の前の子どもたちのために柔軟に関わっていくことの大切さが身にしみました。
- NZでの様子をお聞きし、文化の違いを超えた部分で、どうしたら日本の学校に取り入れることができるのか考えさせられました。すぐには答えが出ないので、今回をきっかけに、先生方と対話していきたいと思いました。ありがとうございました。
- NZ研修のお話をお聞きし、NZでは、より「個」が生きる教育プログラムが体系的に整っていると感じました。日本はそのような環境とは言い難いですが、現実の子どもたちや現状の学校を取り巻く環境を考えたときに、あらゆる要素を取り入れていくことは必要だと感じています。例えば単元内自由進度学習をやっていたときに、子どもから「(一斉でやるより) 忙しくなった。たくさん考えないといけない。」という声がありました。より主体的に考えるようになった姿の一つだと思います。どのような形なら子どもがこれからの社会を生き抜くための力をつけていくことができるのか、子どもの将来を見据えてこれからも考え続けていきたいと思っています。
- 私たちの経験を基にした「当たり前」は、私たち教員にとっての「当たり前」であり、眼前の子供たちや世界基準に照らせば「当たり前」ではないことを、今後も、私たち教員の「当たり前」にする自己研修や校内研修を継続したいと思いました。
- 大変刺激を受け、明日の学校のために私ができることは何だろうと、考えさせられました。新しい風を学校に吹かせるために、広めて、つなげて、挑戦する、教職員のウェルビーイングを自分のテーマにしてできることから始めたいと思います。
- 若い先生方が、こんな視点を学んできたのかということに刺激を受けました。また、伏木先生がニュージーランドやヨーロッパなどの学校、教委制度、その国のかかえる現状やその背景についても語っていただいたので、より理解を深めることができました。学校の風通しのよさは、管理職が形ばかり整えるのではなく、どのような実や効果があるかをよく考えてつくっていくものだと感じました。お話の長い先生がいたので、正直、もっと他の先生やチャットの質問等に対する声を聴けたらという感想はあります。
- 県外、海外の学校の視察研修で刺激になる点は多々あると思います。今後もたくさんの先生方が視察に行けるよう、教育会での援助をお願いします。
- 第2部は、広い視点から教育について考え合うことができ、その時、その瞬間の考えや気持ちに対してお答えいただいたり、話し合っていくことができ、良い機会をい

いただきました。

- 学習者の目線にたって行われる教育の在り方について、日本にそのまま導入することはハード面からしても難しい部分がありますが、日本における当たり前とっていることを見つめてみる、自分たちに問い直してみることで、新しい学びの姿が生まれるのではないかと感じています。北欧やニュージーランドのお話を聞く機会をいただき、大変勉強になりました。
- これからの学校教育をどうしていくべきか？考えさせられることがたくさんありました。
- ニュージーランドの教育、様々な立場、経験の先生方のお話をお聞きする良い機会、これまでの実践とこれからの実践をリフレクションするきっかけとなりました。「子ども中心に、シンプルかつ状況に適応しながら物事を考え、実践していくこと」が大切ではないかと感じます。
- ニュージーランドへの視察は、参加者のみならず、総集会参加の先生方にも大きな問題提起になったと思います。今の日本の教育をあたりまえととらず、諸外国の教育からもヒントを得ることは重要なことだと感じました。日本の教育は、現在不登校児童・生徒が年々増加していく中、やはり何かを変えなければならないと思います。本日得たことの中から、それぞれの先生方がそれぞれの学校で、何かを始めてみるところからではないかと思っています。
- 現状に満足せず、よりよい教育を目指す先生方の存在を心強く思いました。こういう場を多くの先生方と共有することで、全体の意識が高まると思います。
- 教育対話を聞きながら、普段接している子どもたちに、こんな風にしてみたいと考えるきっかけになった。新しい視点を見つけられたと思う。
- ニュージーランド以外の国々についても、知りたいと思った。児童理解と授業をつなげて、子ども達をより良く伸ばしていくには、六年生の教科担任制（学年内含）を今やっている5教科程度が良いと思った。
- NZの学校と比較しながら自校のことを考える機会となり、ありがたかったです。私はまず先生たちのゆとりが最初に必要だと感じています。ゆとりがあると新しいことへの挑戦が内発的に始まるのではないかと予想しているからです。どうゆとりをつくるか知恵を絞りたいと思いました。
- 本当に今までの日本の教育が変わろうとしている時だとあらためて実感しました。子ども自身が、登校したい！学校であれをやりたい！なんて思いながら主体的に学ぶ学校になると素敵だと感じました。
- 百聞は一見にしかず。先生方が視察されたことが、会員に還元される内容で良かったと思います。研修により学ばれる先生は更に良くなろうと、深めていかれます。どう意欲を高めるか、子どもの指導と一緒にしょうか。
- ニュージーランドでの経験をそれぞれの先生方がそれぞれの視点で語っていただい

たことで、日本の教育、長野県の教育について、いろんな角度から見返すことができたように思う。対話を聞いて自分自身も考える時間となりました。

- ついつい自分の考えに固執してしまっていたり、それをクラスの子どもたちに押し付けてしまっていたなと思いました。ニュージーランドの教育はもちろん、たくさんの教育への考えを知り、意見交流できる貴重な機会だったなと思います。
- 本校でも、多様な子どもたちの実態にあわせて、自由進度学習や教科担任制など、アレンジしながら取り組んでいます。本日のニュージーランド教育の様子などから、本校でも取り入れられるところは、参考にしていきたいです。本日は、ありがとうございました。
- 日本のシステム、勤務する学校がある地域のよさ、一人一人の子どもや職員との出会いを大切に、子どものためになることは何かを考えながら取り組んでいきたいと改めて思いました。
- 4名の先生方や対話に参加された先生方のアドリブ力が素晴らしい！最後に伏木先生がおっしゃっていましたが、「日本教育の良さ」も大切にしたいと感じました。
- 多様な角度から教育について見つめなおすよい機会となりました。ありがとうございました。
- ニュージーランドの働き方に余裕を感じました。真似できるところはすぐにでも真似してみたいと感じました。
- ニュージーランドの教育について知ることができ、大変参考になりました。日本とニュージーランドのどちらが…、という話は難しいと思いましたが、それぞれのよさを生かしつつ、児童生徒の資質・能力を高める点について、考えていきたいと思いました。
- 教科担任制のメリット、デメリットを学ぶことができました。特に、信濃小中の5年生の事例が、非常に興味深いものでした。
- チャットの言葉を拾って話題に繋げていただき、参加型の要素を強く感じました
- 日本とニュージーランドどちらがよいということではなく、海外の学校の様子を知ることによって日本の教育のいわば当たり前になっていることを見直すよいきっかけとなりました。
- ニュージーランドの教育を知り、日本の教育も子どもたちがもっと自由であってもいいのだろうなと思います。もちろん日本の学校教育の良さも継続しつつ、他国の教育の良さも取り入れていけるといいと思います。
- 大きな枠組みの中で対話がなされ、その言葉で自分自身が考える機会となった。
『当たり前のこと、その当たり前は誰のためなのか、何のためなのか』、全てにおいて共通に考えられることであるので、大切にしたいと、改めて実感した。
- 国外の取り組みについて知りたいとは思うものの実行できずにいたため、良い機会となりました。授業の雰囲気や形態が日本とは大きく異なり驚きましたが、日本の良

い部分や国民性をそのままに、国外の取り組みを取り入れることも必要なのでは無いかと考えが深まりました。また、自身の学校でも行っている教科担任制について、担任が教えることの良さ（子どもが落ち着く等）を知り、取り入れ方も考えて行く必要があるのか、と参考になりました。ありがとうございました。

- いろいろ知れて、考えさせられて有意義な時間となった。日頃から、子どもたちは序列化されるために学校に集うことがあってはならないと行動してきたが、NZの学年に子供をあわせるのではなく子供のニーズ、能力に教材を合わせるにはどうするか考えていきたい。まず、書写は変えられそう！提案します。
- 当たり前を問う時間になった。こうあるべきという呪いから脱出し、柔軟な発想を大切にしていきたいと思った。視野が広がった。
- 各先生方の思いや考えを共有することができ、有意義な時間になったと思います。
- 教育対話では、さまざまな意見や考えに触れることができ、大変貴重な機会となりました。
- あらかじめ作った原稿ではなく対話をしながら考え学んで行く形がとても良かったです。
- NZ教育のよさを知ることができた。外から見て日本教育の良さも聞きたかった。その視点からすると、たくさんいるALTが感じている日本教育や長野県教育のよさを聞きたいと思った。
- 外部を知ることで、改めて内部についてわかることができました。パネリストの先生方の発言も身近な声として、とても共感できました。
- 自分のクラスの様子を思い浮かべながら聞いていた。4月から5年生の担任をしているが、「何ができるようになるか」を意識して授業をしようとしているが、子どもたちにその意識は薄い気がしている。どんなことをすれば良いかを試行錯誤をしている。「これまではこうだった」「こうすべき」ではなく、目の前に子どもたちに合わせて自分の考えを変えていくことに悩むことも多いが、「ニュージーランドの学校とは違うからできない」ではなく、自分にできることからチャレンジしようと感じた。
- これまでの当たり前を見直し、これからの教育を考えるよい機会になったと思います。若い先生方の熱意を感じられました。
- 貴重な経験をされた先生方の実践を会員みんなで学ばせていただきありがたかったです。
- 伏木先生ありがとうございました。先生のお話はいつも「当たり前」を考え直す機会となります。視察した4名の先生方のこれからが楽しみです。頑張る若者を精一杯応援したいです。
- 他国の教育事情を垣間見ることができ、新たな視野をいただきました。しかも、4名の先生の課題意識や価値観を通して伝えられたものでしたので、自分なりに考えながら聞くことができる面白味のあるものでした。一方で、伏木先生も最後におっし

やいましたが、近年、新たな教育実践や考え方が次々に報告される中で、我が国の教育実践のよさ、次世代に継承すべきことも丁寧に議論していく必要性を強く感じています。今回のような他国の様子や新たな教育実践を基に教員相互に考え合える時間を大切にしたいと思います。その意味で、教育会の意義が感じられる時間でした。

- 日本とは違う環境での学びを知ることができました。伏木先生の前年踏襲のとられない学校運営のありかたを考え、大変でも取り組んでみることの大切さを感じました。
- ニュージーランドの働き方、とても魅力的でした。3時に帰れることは難しいかもしれないが、休みの日は家族と過ごしたり、平日も早く帰って体を休めて、次の日をワクワク迎えられようような日本の教育になるといいなと思いました。
- 研修の大切さを感じた。
- 講演会方式ではなく、教育対話形式で、話題の方向に合わせてテーマを絞って深掘りしていただいたので、とても興味深く聞くことができて良かったです。
- ニュージーランドの取組で自分のこれからの教育に関わる活動に取り入れそうなことはあるだろうかと思いながらお聞きしていました。一人一人の子どもの思い、願いを大切に、よく聞くことは、あらためて明日からもすぐにできることだと感じたので、実践していきたいと思います。
- 4の設問でも回答しましたが、教育対話は、聞いているだけで終わらず、自分の考えと重ね合わせながら参加でき、より自分の考えを深める、広げることができる意義のあるものであると感じました。また、ニュージーランドでの学びについて知る機会は少なく、日本型教育、日頃の自分自身のあり方について、考え直すことができました。
- 若い先生方のパッションを感じ、私も負けていられないと思いました。私も情熱を燃やし続け、今できることから変えていこうと思っています。
- ニュージーランド研修に参加された、4人の先生方のそれぞれの視点はどれもここからの学校を考えていく時に大切だなと感じました。子ども中心のニュージーランドの教育のお話をきき、こどもを地域で、学校で、中心として大切にしたいという思いは日本も大切にしてきた視点だと感じました。これからの学校作りを考えた際に、さらに、今までの学び方やカリキュラムが目前の子どもに合っているのか、こどもの将来につながる力になるのかという視点を持ち、柔軟に考えていきたいと思いました。
- 当たり前と思っている日本の今の教育を、ニュージーランドの教育現場の実態を通して考え直すことができました。子どもたちが安心して学校で過ごせること、意欲的に学びに向かえることを第一に、我が校で実践できることを考えていきたいと思います。
- とても質の高い対話がなされていて、学びの多い機会となりありがとうございました。

た。ニュージーランドのよさだけでなく、日本の学校のよさについても考える機会にもなりました。講師の先生をはじめファシリテーターの先生、パネリストの先生方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。この対話の続編が皆様にあってもよいかもしれません。

- NZ の教育従事者の生活スタイル、理念が参考になりました。日本と教育の社会的位置づけが異なるので反映することの困難さは感じますが。
- 教育活動を今までとは違う角度から見直してみるといく必要があるなと改めて考えることができました。他の国の教育の良さ、日本の教育の良さ、視点を広く持ち、未来の社会を作る子どもたちと関わっていきたいです。
- 「こどもたちのために」それぞれのお立場からお考えをお聞きすることができ有意義な時間となりました。
- 同一年齢にて同一の内容を教え、同じ行動様式を求めやすい日本の教育において、どのように子どもを中心とした教育へ移行していくのか、日常的な学校教育の中でどうすれば可能になるのか、改めて考えさせられました。自由進度学習やブレンディッド学習等、個別最適化できる授業形態を取り入れつつ、子ども一人ひとりの実態に応じて学べる実践を重ねながら、子どもにとって楽しい環境を作れるように努力したいと思います。
- 学校を変えるためには、校外に目を向けることや、多くの仲間をつくり、対話を通して、教師も協働して取り組むことが原点であるべきと考えさせられました。
- ニュージーランドの学校の様子を知ることができて良かったです。お話にもでていましたが、そっくり真似てもうまくいかないと思います。実情に合わせて柔軟に取り入れていく事がいいと思いました。ただ、学校を変えていくきっかけ、勇気、根拠、必要を感じることができたのはとても価値があったと個人的に思います。
- やや時間が長かったこと以外は、内容・チャット形式も利用したことなど、有意義な時間でした。
- 今までの当たり前を見直すヒントをたくさんいただきました。
- ニュージーランドにて充実した研修を受けられた様子が伝わってきました。日本の教育にて当たり前と思っていたことに問いを持つことに大きな意義があったのだと感じます。その問いを目の前の子どもたちの実態や日本の教育課程を大切にしつつ、生かしていきたいと感じました。
- 教育対話では、先生方の生の声を聴くことができ、いろいろと考えさせられました。若手の先生方の発信を今後も聴きたいです。
- 一人ひとりの学び方や実態をふまえて、どのような学びを創造できるか、悩みながらも本気で取り組まれている先生方の実践から多くのことを学ばせていただきました。今の日本の教育の課題もありますが、当たり前に行っていることの中に、海外から見たら素晴らしいと感じられることがあると思います。問い続けながら、目指す方

向性を共有できるように対話を続けていきたいと思います。

- 自校の状況とニュージーランドの状況を比較して、自校のよさと課題を考えることにつながった。自校の参加したメンバーと月曜日に会った時に話題にし、学校運営に反映できそうなことを考えてみたい。
- 国が違えば教育カリキュラムや教育内容が違うのは当然ですが、NZ の教育から学ばせていただくことがたくさんありました。「個を大切にする」「子どもにも教職員にもゆとりがある学校」のヒントをいただきました。また、「自ら研修の場を求めている」という気持ちにもなりました。ありがとうございました。
- それぞれの体験をお聞きし、自校で今後取り組んでみたい事柄がいくつか浮かびました。ありがとうございました。
- 視察にいった先生方がそれぞれ違う視点で参加して意見を聞けたことは良かった。ニュージーランドに学ぶことも多いと思いました。
- 興味深く聞かせていただきました 自分の勤務校でどのような形で今回の話を反映させていくか考えていきたいです
- 一年半以上をかけて実現した ” 教育対話 ” だけあって、良かったです。一点に収束しなくても、一論点が複線化していたので、いろいろな観点から学ぶことができました。伏木先生の公正な個別最適化のお話は、勉強になりました。また、働き方改革の観点も面白かったです。Wellbeing が叫ばれる現在、日本ならではのそれを本気で考えさせられました。とても学びが多い対話でした。ありがとうございました。
- 日本とニュージーランドとの違いから、目の前の子どもたちのために、もっとできること、もっと工夫したいことがあるなあと感じると同時に意欲が湧いてきたように思います。4 人の先生方の表情、伏木先生のお話、田川先生の進行、いずれもすばらしく目が離せませんでした。この対話を会誌で活字化できないかと思いました。
- ニュージーランドの教育を知ること、日本の教育を考えることができた。日本の教育の中にも良い部分はあると思うので、両方のいいところ取りができるといいと思う。社会や保護者の学校や教育の考え方も変えていくにはどうすればいいのだろうか・・・
- 教壇に立つ我々が、新しい知識を得たり、他国の教育環境と比べ自国、また自校を見直したりする、良い機会となった。
- ニュージーランドの教育から信州の教育の在り方を見つめ直すことができました。よさとこれからに向けての可能性を考えることができました。
- ニュージーランドの教育活動を紹介していただき、大変参考になりました。日本型教育の良さと課題を考えさせていただき、これからの学校づくりに役立てたいと思います。
- ニュージーランドの教育は、理想的であるかのように言われている向きもありますが、実情は格差など課題もある事が分かりました。他国と比較する事により、改めて

日本の教育の良い面や課題を考えさせられました。ニュージーランド視察にはとても興味があり、次回あったら是非参加したいと思いました。

- 大町市美麻小中学校で伏木先生にお世話になり、もう一度お話をお聞きしたくて参加しました。長野市に戻ってから、思うように実践ができない自分でしたがあの頃教えていただいた学びを思い出すことができました。長野市でも、ここから更に学校マネジメントが進むことを願っています
- 様々な考えに触れる機会となりとても良かった
- 子どもたちの学びとは何か、学校という現場で働く者として、何を大切にしていくなのかということを考える機会になりました。今まであるものを目的から見定め、改めて考え直し、そして、小さな事からでも改善、実行していくことが必要ですし、そのための関わりを教育会等でのまなびからできていくと良いなと感じます。
- NZ 視察研修の報告をお聞きし、NZ の教育から、子ども達の学びたい意欲や「主体性」を伸ばすための教育環境を知ることができました。子ども達の自分から自分で、、主体的に学び活動するために、我々教員がどのように学習環境を整え、個に応じてどのような支援をしていくかという点で見ると、私たちが日々行っている特別支援教育と似ていると思いました。国際的な視野から日本の教育をどう考えるか、ということもありますが、自分自身は、この特別支援教育を通常の学校でどう生かすか、、ということを変えて考えることができました。学びたいこと、自分のやりたいことがめいっぱいできるそんな学校・学級作りをしたいです。 また、教員の働き方改革については、考えさせられます。働きやすい環境、働きやすい仕組み、取り組み、国によって大きく違いますね。工夫したいところです。色々考える機会となりました。ありがとうございました。
- 内から外を見る。外から内を見る。多様な視座から「こと」や「願い」を問い、考え、つながりあいながら、またここから私が一歩踏み出すことの大切を学ばせていただきました。感謝です。
- 参考になりました。 子どもたち一人ひとりを大切にすること、経験を大事にしていくことをさらに自分の課題としたいと思いました。
- 日本と、ニュージーランド、学校教育のスタンスの違いを感じました。しかし、そこに全ての原因を求めていて葉、何も変わらず、その中で何が出来るのかを考え、出来るところから実践していくことが大切だと思いました。今日、参加していた本校職員と本日の内容について対話をし、一歩を踏み出していきたいと思います。
- 日本の長野県という狭い世界しか見えていない自分に全く知らない他国の教育、学校づくりについて、目から鱗の話をたくさん聴かせて頂きあつという間の時間でし。これまでの当たり前にとられることなく、これからを生きる子どもたちのための学校を先生方と一緒に創っていきたいと決意を新たにすることができました。
- 大きな事業なので、この場で共有できてよかった

- 海外の教育制度や学校教育の実情を知ることができてありがたかった。それによって、たくさんの先生方の考えも知ることができ、今後の授業に活用できるヒントを得られてよかった。
- 上の4で、述べた通りです。知見をいただきました。来年度も、同様に期待しています。田川先生のファシリテーターお見事で、対話の深まり広がりが実現していたと存じます。研修になりました。
- ニュージーランドは教育委員会のような組織を廃止し、国と学校しかないというお話でした。そのように進めていった背景や、ニュージーランドが抱える課題、その課題に対してその取り組みは国としてはどう評価されているのか、等、それぞれの先生方のお話がとても興味深かったため、聞くのに夢中になってしまい、終わってから改めて考えてみたところで、質問したくなることが出てきました。貴重な内容をありがとうございました。
- それぞれの先生方が海外視察で学んだことや感じたことがよくわかり、興味深く聴かせていただきました。対話型の発表もよかったと思います。
- 自分の学校はどうだろう、自分の授業はどうだろう、と比較しながら聞きました。自分の自己課題を持つことが、この対話をお聞きし考える事ができました。
- 機会があれば私も参加してみたいと感じました。学校づくりの参考にしたいと思います。
- 貴重な実践を教育対話として共有できる機会は大変よいと思います。
- 日本以外の国の公教育、学校について、実際に見て来られたことをお聞きするのは興味深かったです。教育方法に目が行きがちですが、学校教育の目的を社会的背景も補足しながら語り合っていた頂き、参考になりました。教員の業務が日本とNZで同じではないことも踏まえた上で、パネリストの先生方が自分事として、学びを生かそうとされている姿勢が素晴らしいと思いました。
- 自分のいる環境を当たり前と思わず、広い視点から捉え直すことができました。今学校で行っていることにどんな目的があるのかから問い直し、生徒・職員・保護者にとって心ゆく学校になるように考えるきっかけになりました。
- もう何十年も教員をしている私ですが、可能なら、他県や他郡市の学校現場に行って自分の目で学びたい、そんな気持ちにさせていただく時間でした。
- 多様性を大切にする中、現場も工夫が必要であると感じました。職員、家庭、地域社会の考え方を変えることも課題になると思います。
- ニュージーランドの教育活動の素晴らしさが分かりました。
- 海外の様子を知ることができる貴重な機会をいただきました。参加された4名の先生方が、自己課題を持って参加し、戻ってきて現場で過ごす中で感じる現在の思いを聞かせてもらうことができたことは、自分にとって大きな学びでした。また、「子ども」が主語からブレないNRの教育制度からも学ばせていただき、すぐには無理で

も、これから学校で挑戦してみたことも持つことができました。校長先生のご指導の下、考えていきたいと思います。

- ニュージーランドの学校の取り組みがとても魅力的で、日本や長野県の教育で取り入れられたらいいのに…と思いました。職員もそんなに早く帰れるのがうらやましいです。
- 伏木先生の話やニュージーランドに視察に行かれた4名の先生方のお話を聞いて、とても勉強になりました。現在、5年生の担任をしています。教科担任制により、時間や先生によって授業のスタイルが違います。本日のお話からすると確かに子どもたちにとって、ゆとりが無いように思えます。お話の中にもあった通り、「教師の専門性を高める」という点で、我々教師も教え方を学ぶ、教科書を通して学び方を学ぶということをしていく必要があると感じました。これらをすることによって、時間的にゆとりを確保できたり、子どもたちが学び方を覚えて自立して学べたりするのではないかと思います。
- 日本以外の国の教育事情を知ることは、現在の日本の教育を、または、本校の教育をどう変えていったらよいのか考えるよい機会となりました。
- NZでの学びを共有していただき、写真などを見させていただく中で子どもたちの学習環境が日本とは異なっていることを感じました。対話がしやすいような円形の机があったり、ソファがあったりと、子どもたちが学ぶ上で、どのような環境が子どもたちが学びたいと思うかであったり、どのような学習形態が子どもにとって適切なのかを考えていく必要があるのではないかと感じました。また、子どもたちにとって居心地のよい学習環境であるように教師が場を整えていくことが大切なのだと思いました。また、お話の中であった「学び方を学ぶ」ということは日本の学校での問題解決等の仕方につながるといった内容のものがチャットにあり、子どもが自ら学びを進めていくためにはこれまでの知識伝達型の授業ではなく、子どもたちが自ら学びを振り返り自己調整しながら自分に適切な学び方を見つけていくことが重要なのだと感じました。
- 以前、文書で視察報告を拝読しましたが、半年以上経ってから、それぞれの方々が研修視察を自分の中で咀嚼し、現在の取組に生かしていることがよく分かりました。
- ニュージーランドの良さと日本の良さを取り入れるところ、参考にするとところなどがわかりました。ただ、日本の教育制度については、「みんないろいろ思っているけど、今あるところで頑張っている現職の職員に対して、どうなのか」とは、思いました。大学ならいいけど、上水内教育会の中での研修なのだから、発言の内容は考慮してほしいです。
- 自由進度学習を積極的に取り入れるためには、一学級の人数が～24ぐらいまでが良いなと思いました。
- 海外と日本の違いにおどろきました。

- ニュージーランドの学校の様子をお聞きして、うらやましく思いました。文化や体制の違いもあると思うのですが、ゆとりのある中で教師自身が自分で教えたいことを自分で考え、実践していくのは、教師の主体性を高める意味でも大切なことだと思いました。「柔軟な教育」という言葉が印象に残っていますが、考え方は学びたいと思いました。
- 各学校の理事会が学校のカリキュラムを策定していることに新鮮さを感じました。これぞ「地域とともにある学校」ですね。子どもたちの将来の社会生活につながるカリキュラムや学習内容、掲示物、指導方針が大変素晴らしいと思いました。同時に、教科の内容の理解や学力向上にかなりウエイトを置く教育とは質や内容がかなり違うように感じました。ニュージーランドの教育課程の良さや実践に学ぶべき点は多々あったが、現在の日本の教育に即取り入れて実践するというのは難しいと感じました。画一的な内容で学んだり、同一方向で取り組んだりすることに困難さややりづらさを感じる児童が増えていることも確かだと思います。その状況の中で個別最適な学びや自由進度学習などの新たな実践や取り組みを取り入れていくことにも新たな工夫や努力が必要だとおもいました。日本の教育にも多様な柔軟性が求められているように思いました。
- 研修の報告とともに、対話をしながら深めていくことができ、とても良かったです。新しい学校づくりをしたい、というワクワク感に溢れています。
- 今後、参考にしていきたい点がたくさんありました。ただ、そのためには、新たに取り組んでいくための時間が欲しいと思いました。今で言うと、運動会の準備に忙殺されていますが、この時間が本当に子どもにとって必要なのか、考えていきたいと思えます。そもそも、子どものための運動会になっているのか、この運動会の準備が子どもの日常を豊かなものにしているのか、吟味していきたいです。先ほど、田川先生から「当たり前を見つめなおす」というお話もありましたが、「運動会」という行事が、子どもの何を、どう伸ばしていくためのものなのか、改めてその意義を考えてみたいと思います。
- ニュージーランドの子どもたちの様子、先生方の働き方、教育課程、先生方の対話。聞いていておもしろかったです。思わず自分も画面の向こう側ですが、考えたことを口に出してつぶやいていました。パネラーの先生方、伏木先生、ありがとうございました。
- 国が違うことで、日本との違いを学んだり、日本に生かせそうなことも学ぶことができました。
- ニュージーランドのように制度丸ごと変えることをしないと、教員の努力や工夫だけでは難しいのかな、と思いながら聞いていました。今日のお話を心に留めながら、自分にできることに真摯に向き合う、結局私にできることはそれくらいしかないのかなと自分の無力さを感じました。

- NZ の教育現場を知り良いところは信州教育でも取り入れるべきではないかと思いました。私はフィンランド、イギリス、アメリカの教育について調べる中で、世界の学力調査（PISA）上位国は、OECD との繋がりが深い国が多いことや、教師も人間として児童と向き合っていること、ソファやテーブルなど自由な教室環境と自由進度学習も実施されていました。大きなくりでは NZ も似ていると思います。日本も経済との繋がりを「変化の激しい時代に…」と経済によせていると思います。ただし、日本の抱える課題は「世界でも若者の自殺率が高いこと」だとすると、教育現場で力を入れることは、個々の児童を認めて自己肯定感を高め、他人を許容し…という基本的なことと、児童の家庭環境にも格差がある背景への認識の甘さを解消する必要があるのではないかと考えてしまいます。自分の考えが湧き出てくる、教育対話でした。ありがとうございました。
- 海外の教育に触れる機会がこれまで全くなかったので、お聞きすることができ、日本の教育のこれからについて、考えていきたいと感じました。勝野先生がおっしゃっていた、「子どもは未来からのあずかりもの」という言葉を胸に、これから来るであろう変革する社会に向けて子どもとどのように学びに向かっていくべきか、私なりに考えを深めていきたいと思いました。
- 若手の先生方の具体的な実践から、主体的な深い学び方について学ばせていただきました。
- 肌で感じてこられた方の話は、とても興味深く、素敵な時間だった。
- それぞれの先生方の課題や伏木先生から教えていただく、国際的な状況等がリンクしていて、大変参考になりました。対話の話題の流れもとても自然なものに感じました。
- NZ の学校の様子や教師のあり方を知ることができた。もちろん先生方のワークバランスも大事だが、子どもたちのやりたい、を実現させてあげる環境や金銭的に足りないのが現状。そのような中でも、子どもたちにとって自分たちが役に立っている、認められていることを実感できるような教育活動を目指していきたい。子供達への自由度を担保してあげたい。
- NZ の人間的な豊かさを感じつつ、現状の日本の良さをもう一度見つめ直したいと感じました。同時に、もっと日本の大人が主体的でありたいと感じました。
- 発表を通して、自校で何ができるか、考えるいい機会になりました。チャットでもいいですがブレイクアウトルームでの話し合いがあると更に参加型になると思いました。
- 今日の対話をお聞きして、NZ と日本では社会のシステムが違うので、単純に比較できず、どちらがいい、悪いと言えません。どちらにもよさがあり、どちらにも課題があることが分かりました。でも、子どもを中心に考えること、なんのためにそれをしているのかを問うことを常に意識したいと感じました。

- 今年の教育対話もとても充実した内容でよかったです。なぜこれをやるのか、ということが日々の忙しさの中で見失われているように感じました。目の前の子どもをしっかり見て、何のためにこの教材を使うのか、何のためにやるのか、職場の同僚と対話しながらしっかりと考えていきたいと思いました。
- 海外のあり方が全て良く日本のあり方を改善すべきという発想ではなく、どちらにも光と影があり、比較することで日本型教育制度の良さや改善の方向性を改めて考える機会となった。いずれにしても子どもを真ん中に考え、実践し、評価し、改善の繰り返しはどの国でも共通で、変化なき所に進歩や成長なしを、自戒を込めて再認識した。
- パネリストだけではなく、参集している先生方も参加してのお話がおもしろく、まさに対話だったのではないかと感じました。それぞれがここで感じたことを取り入れながら自身を高めていけるのではないかと思います。本当に一人ひとりに目を向けているのか、という伏木先生の言葉を胸に取り組みたいと考えています。
- 昨年度の視察研修を全会員にフィードバックしていただきながら学べる良い機会だと感じました。ありがとうございました。、
- 「そもそも」を考えることの重要性を再認識しました。若い先生方が、視野を広げられる研修機会があることは、大変意義深いと思いました。
- 司会の先生が元気よく明るく進めていただいていたので、温かみのある総集会になっていました
- 他国の様子から日本の教育、自校の教育について考えるのは大変参考になると思いました。
- ニュージーランドであっても、日本であっても、子どもが正しく豊かに育つことが国の未来に直結しており、well-being のすべてだと感じました。自己解決型の教育は「丸投げ」と言われることもありますが、まずは教師側の着地点（何を学ばせたいのか）がはっきりしていれば、それにつながる道が一人ひとり異なるだけだと思います。教師側にとってはかなり回り道に感じるやり方でも、子どもが達成感を感じる大事な過程だと思います。でも、それをゆっくり一人ずつのペースに合わせてできるか、が今の日本の課題と感じています。いろいろなものに縛られているなあ、とあらためて思いました。以前に、知人がカナダへ留学し、その教育スタイルを学ぶことで、どれだけ日本の教育がブラックであるかを目の当たりにしたため、教師の道をあきらめたと聞きました。諸外国に学ぶ点はいろいろあるのだと感じています。
- 自分自身を振り返ると目の前の忙しさに視野が狭くなっているなど感じさせられました。日本を離れ、世界に目を向けると、今我々が取り組んでいる教育の本質は何なのか改めて考えさせられました。どの世界でも共通しているのは、子供たちのため。そう理解しチャット機能も含めて対話しながらいろいろな展開があるので楽しんで参加することができました。

- 子どもを軸においた教育を実現していくには、現在の公立学校の制度の変更や見直しも必要であると思う。そのうえで身近なところで考えると、教育費用の自由な運用を見直すことで、個に応じた支援や探究的な学びが実現をしやすいと感じている。特定の販売店からしか予算の請求ができないこと（ネットからの購入、自宅近くの販売店などは不可）は、授業作りの自由度を狭め、非常にやりにくい。特に理科の授業では、多くの身近なものを材として扱い、教材研究する中で、次の授業ですぐに使いたい、自由な場所で安く材を購入したいときなど、このような場面は日常的に起きる。また、世の中の動きに合わせ、現金だけしか領収書が切れないことなど、私立学校や、国立大学附属学校で勤務していたときの自由にできていた頃と比べて、非常に動きにくいと感じている。ぜひ、このような部分からの改善を行ってほしいと願っている。
- ニュージーランドの教育が、子どもを中心とした方法をとっていることがよくわかりました。報告の中にもありましたが、その子にとって学びたい、学ぶべき内容が、年齢を問わずその子にとって必要であるかどうかを中心に決めている点が良いと思いました。個別最適化された教育が制度的にもしやすい環境であると思います。一方で、当該の子にとって、何を学ぶべきか、学ぶかを、明確にファシリテートする力がとても大切だと思いました。

<参集者>

- 会場の方、オンラインの方、パネリスト、全ての方々が一体となって創り上げて行くような対話でとても面白かったです。学校の研究会や会議も、田川先生のように進めていけばこんなに盛り上がるのかという点も勉強になりました。
- 田川先生のファシリテートがとても面白く、もっといろいろなお話を聞きたいと思いました。会場では、Chat の意見が見られなかったのを見たいと思いました。NZ のお話しも興味深く、日本のなかだけにとどまって考えているだけでは狭いな、と思いました。まずは、県外視察！
- 素晴らしい経験をお伝えくださり感謝です。
- 学校の中だけにいると（長野県の中だけにいると）それがあたりまえになってしまいがちですが、外から眺めたり、他のやり方を体験したりすると新たな視点を得られてとてもよい機会になっていることが、パネリストの先生方の発言から感じられました。これまでの学校が全て否定されるものではないと思いますが、このままでは限界があるのも事実だと思います。今までのあたりまえを見直し、もっと子どもに寄り添った形での授業ができたらと思いました。自分たちらしく生き生きと 子どもたちも先生方も過ごせる学校にできたらと思いました。
- 国が変われば学校餅が得分科がある。日本の教育システムはかえって異質なのか？ 私たちも新しい学校づくりを目指すことは大賛成ですが、指導要領などの縛りがある中でどうしてもいつもそれを気にしてしまい、思い切ったことがなかなか難しいのが

現状下？できる子とから少しずつチャレンジしていきたいと思います。

- NZ の教育を通して、今の日本の教育について様々な視点から考えることができとても楽しかったです。今回お話しでできたことで、できそうなことから取り組んでみたいと思いました。とても考えさせられる内容でした。Zoom の Chat のやり取りが会場では見えなかったので画面に映していただければありがたいです。
- 日本と NZ のある学校の違いを元に、自校や県の学校のあり方を考えるよい機会になりました。一方で根本的に変わらないと進まない現状もある気がするので『もどかしさ』を感じました。先生がた同士で授業や行事について語り合いながら創り上げて行くチームになって現状に対応していくしかないのだろう。変わるにはまだまだ難しいのが現実。
- NZ といえば、オールブラックスが私にとっては一番印象にあり、比較的なじみのある国です。季節は反対ですが、軽度も日本と割合近いのでぜひ一度入ってみたいと思いました。ハカも直に見てみたいです。体育館での裸足や校庭のでこぼこなど、環境の工夫を通じて子どもたちの身体を鍛えることなど見えない仕掛けに感心しました。言葉は違っても身体作りは一緒。日本の紹介をする中で、自分自身が日本について振り返ることができるのも視察のよさと思いました。若い先生方だけでなくベテランの先生方にも行ってほしいと思いました。

<chat より>

- NZ 学校の教育活動の中で、自校で取り入れたいこと、NZ 学校の教育活動で取り入れたいができないこととその原因を教えてください。
- 報告ありがとうございました。ニュージーランドの先生が、時間に余裕をもって、子どもたちとの学校勤務とご家族との家庭生活を豊かに過ごしている姿が印象に残りました。
- 新しいことは新鮮に感じます。勉強になります。同時に再発見した日本の教育の特色やご自身のキャリアとつなげ、これまでの中で貴重だと思ったことがあったらまた教えてください。
- 武田先生のスライドの中に合った基本的な考え方の「学び方を学ぶ」ということについて、日本の授業でいう問題の解き方、各教科各領域の見方・考え方を指導していたのかということ、また、教室に学び方を掲示して学ぶ環境を整えていたのかを教えてください。
- 時間的な余裕を感じました。学び方や日課、教員の放課後の過ごし方等、実際過ごしてみてどう感じたか教えてください。
- NZ 学校と長野の児童生徒がコラボできそうな活動はありますか？帰国後の授業実践等があれば教えてください。
- ご報告ありがとうございました。時間の余裕があることによって、心にゆとりが発

生し、人（子どもに対して、同僚に対して）に優しくなれるのかなと感じました。

- 子どもたちが主体的に活動できる力が育ち（自己選択・自己決定）、それを生かしさらに高める環境が整っていると感じます。

ークラスの人数と対応できる職員の数を教えてほしいです。そこから日本の学習の形が違っているのではないのでしょうか？

- 自由進度学習を行うときの理想的な人数は、一般的に 20 人程度だと言われています。現在の 30 人を超えるクラスの状況では、逆に支援が行き届かないケースが多くなる可能性があります。どんな工夫をすればいいのかと考えるのですが、なかなか良いアイデアが浮かばないままとなっています。
- 一定の「読み・書き」の力が達成していれば、カリキュラムが各学校主体でいいということによって、自由進度型学習というか、個々が学習したいことを学ぶための環境をそろえているニュージーランドの学校の姿を知ることができてありがたいです。カリキュラムの壁をなかなか乗り越えられず、自分の課題となっています。総合などから自分の興味関心のある分野の学習に取り組める環境を用意してあげたいなと思いました。ありがとうございました。

⇒研修先の学校では、

低学年…生徒上限 24 人

中学年…生徒上限 30 人

高学年…生徒上限 33 人という目安があるようです。

- 個々の自由な子どもの意欲に対応できる職員数から違うのだと思います。国民性、目指す姿、教育・学習の仕方など、日本の学習の仕方と根本が違うのだと思います。
- “個々の自由な子どもの意欲に対応できる職員…”

⇒一つの学校の職員数はそこまで大きく変わらないように感じました。クラスサイズの違いは確かにあるかもしれません。

- PISA のスコアは、日本の方が上なので、どちらが良い、悪い、とは言い切れない違いの一つだと思います。

⇒メインで視察した小学校では、日本との違いを大きく感じましたが、初日に視察した中間学校や高校では日本の中学校と同様に一斉授業の形をとっていた（卒業までに資格を取らなければならないので学ぶことに目的意識もあると思います）ので、明確にお答えするのが難しいです。

- 学校ごとに特色ある学校カリキュラムが設定されているということですが、子どもが行く学校はどこに行ってもいいというわけではなく、子どもたちは居住地にある学校行き、その学校でその子の実態に応じた学習環境を整えていくことということなのですね。

⇒各家庭で通う学校は選択ができると思います。ただ、通学が保護者の責任なので、居住地の近くの学校を選択する家庭が多いようです。

- お話の中にもありました、カリキュラムや教え方が学校ごとにゆだねられるということとつながり、学びの形も多様なのだと感じました。ありがとうございました。
- ありがとうございます。家庭の学校教育への関心があり、成長を共に見守り、支援している感じがしました。
- 子どもや職員にとって学校に「安心感」があること、その子がその子らしく居ることが許されることが大切なのだと改めて感じました。各校の理事会でカリキュラムを設定するとお話がありましたが、理事会のメンバーはどのような方々が入っていらっしゃるのか、カリキュラムについて職員でどう議論しているのか、教えていただけたらありがたいです。そういったカリキュラムづくりから職員皆でできるなんて、すごく素敵なことだと思います。
- 報告やお話をお聞きするなかで、NZ と日本の違いは子どもも教師も保護者を含める大人も行動が「主体的」と「自主的」にあるのかなと感じました。これからの教育が「主体的」になるためには、まず子どもの前に立つ私たちが真に主体的にならなければいけないと思っています。
- ありがとうございました。生徒が加わることもあるということ、すごいなあと思いました。ありがとうございました。
- PTA は、各学校で未加入、退会が出始めています。何のための PTA か？を考えることが一番大切だと気付きました。改めて考える機会をいただきました。ありがとうございました。
- 小田切先生のご発言の中に共感できることがたくさんありました。学びの先にあるもの、何を持って幸福と感じるか、些細なことでも満足できる感性を持つことが、大切だと思います。
- 日本は同じところからスタートしないと『間違い』と指摘しまいがちですが、そもそも間違いではなく『違い』である事の意味を間違えてしまってるような気がします。間違いにしてしまう事です昭和気質な管理教育になってしまっている気がします。まずは子ども一人一人遠見ていくことから始め子ども自身が生きる活力を見だし、楽しい！もっとやりたい！と言える子どもたちが育つよう楽しんでいきたいと思います。個別総合は今のクラスの子がハマっていて『やっちゃえ』と称して取り組んでいます。学び多き取組になればなあと思ってます。